

2026年1月26日

会員企業各位

株式会社PR TIMES
執行役員 兼 第一営業部長
小暮 桃子

〈最終報〉一部のプレスリリースの画像破損に関するお詫びと調査結果のご報告

平素よりPR TIMESをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

2026年1月19日(月)に第一報、1月21日(水)に第二報としてお知らせいたしましたプレスリリースの画像破損に関する障害につきまして、継続して実施しております調査を完了し、最終的な影響範囲を特定いたしました。新たに判明した事象および原因の詳細を、再発防止策とあわせてご報告いたします。

〈第一報〉

https://prtmes.jp/common/file/20260119_PRTIMES_ImagesInsident.pdf

〈第二報〉

https://prtmes.jp/common/file/20260121_PRTIMES_IMAGESinsident_detail.pdf

調査の進行により、本障害の発生時刻が1月15日(木)9時10分頃であることが判明いたしました。第一報、第二報と発生時刻のご報告が異なり、混乱を招くこととなり、申し訳ございません。また、一部の過去配信分プレスリリースでサムネイル画像が表示されていなかった時間帯があることが判明いたしました。該当するプレスリリースの配信元企業様へは個別にご連絡させていただいております。加えて、当初の調査におきまして、本障害を起因としていない画像ファイルの破損を誤って対象に含めていたことが判明いたしました。対象外となる12社12件のプレスリリースに関しまして、改めて個別にご報告を差し上げております。

精査の結果、新たに判明した影響範囲を含め、最終的に画像破損が発生したプレスリリースは計1,908社・12,904件であることを確認いたしました。

画像素材はプレスリリース内容を適切に表現するために欠かせない要素であり、お預かりした情報を正確にお届けすることが重要であるプラットフォームサービスを運営する企業として、本障害が及ぼした影響を重く受け止めております。なお、不具合の発生原因箇所の修正および破損した画像ファイルの復旧は完了しております。

障害の検知や影響範囲の特定に多くの時間を要してしまい、対応の遅れを招いてしまったことを深く反省しております。第二報時点の把握状況から新たに判明した影響範囲および、原因と再発防止策について下記の通りご報告申し上げます。

記

1 第二報時点から新たに判明した情報

<障害発生時間>

第二報にて2026年1月14日(水)19時20分頃と発表しておりましたが、正しくは2026年1月15日(木)9時10分頃に障害が発生していたことが判明いたしました。障害復旧時間につきましては、第一報通り、1月19日(月)10時00分頃に変わりありません。

<影響範囲:追加>

新たに795社4,201件の過去配信分プレスリリースでサムネイル画像が表示されていなかった時間帯があることが判明いたしました。795社のうち、新たに対象であることが判明した企業は243社です。

<影響範囲:除外>

第二報までに画像破損の障害対象としてご報告していた計1,668社8,719件のプレスリリースの内、12社12件のプレスリリースが実際には画像破損が起きていなかったことが判明いたしました。

2 対応

不具合の発生原因箇所の修正および破損した画像が正常に表示されるよう復旧作業を完了しております。対応の流れについては、経緯にて後述いたします。

該当するプレスリリースの配信元企業様へは個別にご連絡させていただいております。また、画像ファイルが破損された状態でプレスリリースが配信された33件のプレスリリースの配信元企業様については、ご意向を伺ったうえで改めてプレスリリースのメール配信を行いました。配信の際は、当社のシステム障害により再度のメール配信が行われている旨を説明する文章をプレスリリース冒頭に追記しております。

また、第二報時点で影響範囲としてお知らせいたしましたプレスリリースのうち、67社101件のプレスリリースにて配信当日中に画像が破損していたことが判明いたしました。対象のプレスリリースについて、配信費用はいただかず無償とさせていただきます。

3 経緯

» 2025年12月8日(月)

16:00頃 データの削除対応から30日後に、PR TIMESデータベースから該当データを自動で完全に削除する機能をリリース

» 2026年1月15日(木)

9:10頃 機能リリースから30日経過し、データベースからのデータ削除対応が順次実行される

» 2026年1月17日(土)

17:51 お客様からの問い合わせにより、一部のプレスリリースにて画像が破損している事象を確認

18:09 開発部門にて事象を把握の上、調査開始

18:29 修正対応の上、一部プレスリリースの画像表示が正常に行われたことを確認

» 2026年1月19日(月)

9:14 一部プレスリリースにて画像ファイルの破損が継続していることを検知

9:19 開発部門にて事象を把握の上調査開始

9:49 障害の発生原因と思われるバッチを停止

根本原因の詳細な調査と復旧に向けた対応を開始

14:53 原因を9:49に停止したバッチであると特定、影響範囲の特定を進行

19:57 特定できた影響範囲をもとに第一報を掲出、対象企業への連絡を進行

» 2026年1月20日(火)

影響範囲の特定に向けて調査を進行

» 2026年1月21日(水)

15:53 正確な障害発生期間および追加の影響範囲をお知らせする第二報を掲出、対象企業への連絡を進行

16:05 画像破損の可能性がある全プレスリリースにおける復旧を完了

» 2026年1月22日(木)

影響範囲の最終特定に向けて調査を進行

再発防止策を策定

» 2026年1月23日(金)

10:24 サムネイル画像が表示されていなかった影響範囲(795社4,223件)を特定、対象企業への連絡を進行

18:24 影響範囲の特定を完了

4 原因

本障害は、2025年12月8日に実施した機能リリースにおいて、一部の画像ファイルを誤って削除対象とする不適切なコードが含まれていたことに起因します。具体的には、画像ファイルを削除する際、検索用の接頭辞の末尾に含めるべきスラッシュ(/)が除去された状態で実装されました。これにより、削除対象ではない他のディレクトリやファイルまで意図せず検索条件に合致し、削除が行われました。

正:/release_image/企業ID/リリースID/

誤:/release_image/企業ID/リリースID

また、画像ファイルを時間差で削除するという仕様を検討する段階で、十分な確認プロセスやデータ復旧手段の準備をしないまま、開発を進行させた開発体制に課題がありました。リスクの高さに応じて厳重なQA(品質保証)や機能リリース直後の重点モニタリングを実施すべきところ、リスク認識が不足した状態で開発プロセスが進行し、検知が遅れる事態を招きました。

5 再発防止策

● コードレビューの高度化

既に導入済みの生成AIによるレビュープロセスを拡充し、特にデータ削除を伴うロジックに対しては、リスク検知の精度を高めるプロンプトの最適化を実施します。これにより、コードの誤りを検知しやすくなります。

● 監視体制の強化

画像ストレージの総容量を常時監視対象に加え、想定外の容量減少などの異常値を検知した際に即時アラートを発報する仕組みを構築します。これにより、不具合を早期に検知しやすくなります。

● 設計・承認プロセスの厳格化

仕様書の策定段階でリスクアセスメントを必須化します。仕様書内に「テスト計画」「運用手順」「モニタリング手法」の項目を新設し、承認者がリスク対策の妥当性を確認した上で開発へ移行する運用を徹底します。これにより、リスク認識が不足した状態での機能開発を防ぎ、適切なモニタリング体制をつくります。

● ログ(履歴)管理の徹底

PR TIMESサイト内における画像表示エラーの全履歴を保存し、エラーの増加を通知する仕組みを構築します。これにより、不具合の可能性を早期検知し、万が一不具合が発生した場合にも操作ログやアクセス履歴を遡及して調査できる環境を整え、事後調査の迅速化と正確な状況把握を可能にします。

この度は、皆様へ多大なるご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません。上記の再発防止策を徹底し、信用回復に努めてまいります。

今後ともPR TIMESをご愛顧いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

PR TIMES:<https://prtmes.jp/>

以上